

活力にあふれ躍動するまちづくり

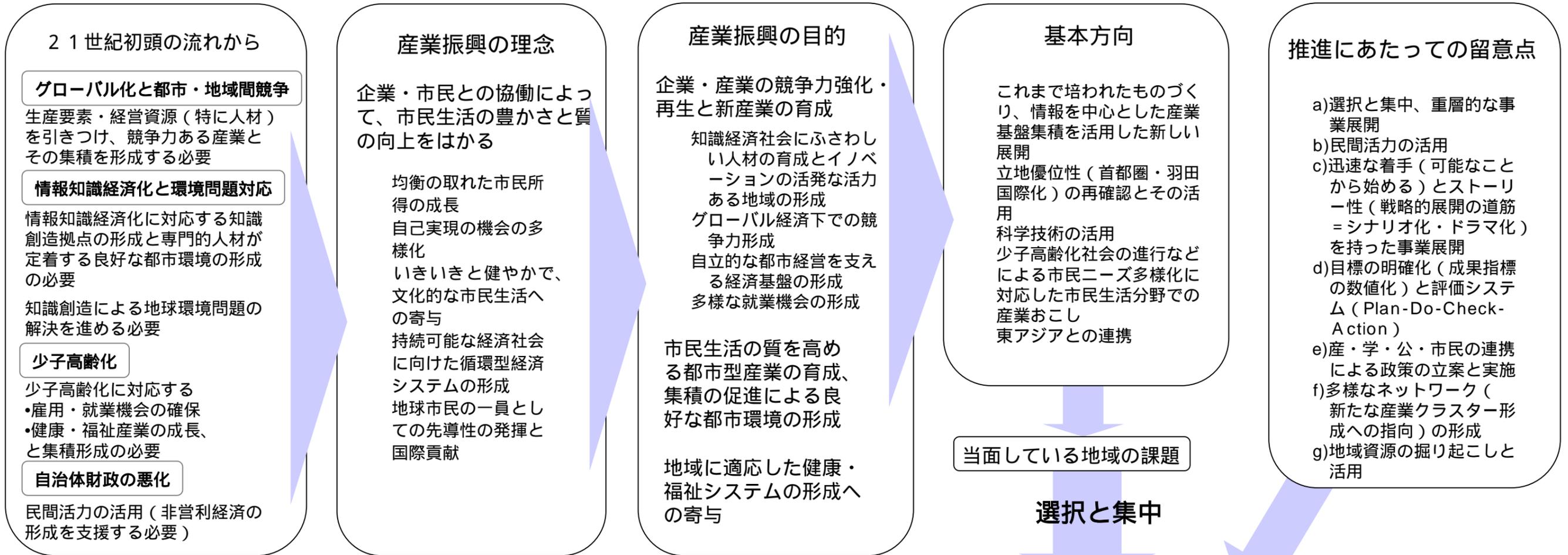
•ものづくり機能の発展と新産業の創出

- 産業振興に向けた基本的考え方・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
- ものづくり産業のあり方・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
- ものづくり産業重点分野の考え方等・・・・・・・・ P3
- 新たな産業の創出・育成・・・・・・・・ P4
- 新産業創造戦略の骨格・・・・・・・・ P5

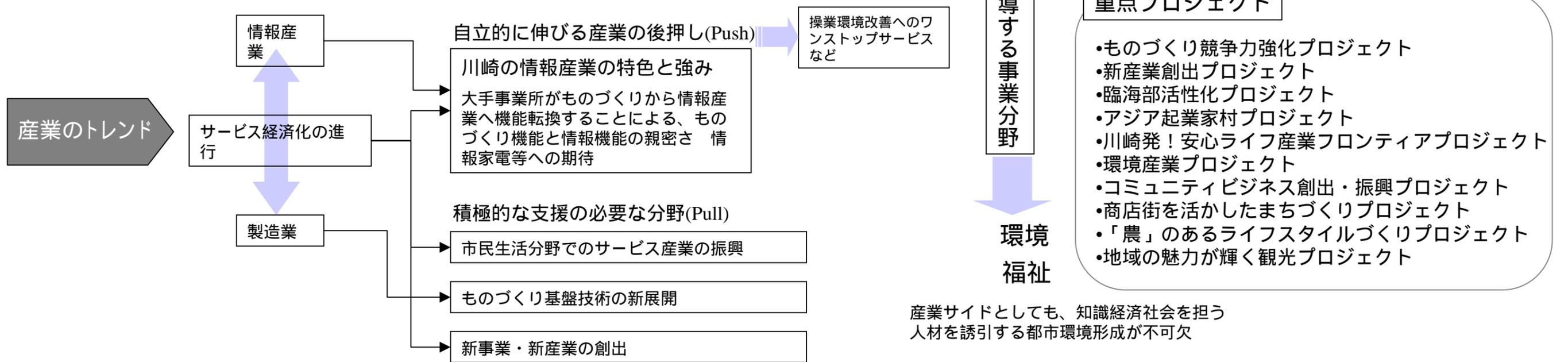
•臨海部再生

- 臨海部再生・・・・・・・・ P6
- 川崎区における工場数・従業者数・製造品出荷額等の推移・・ P7
- 川崎臨海部再生に向けた主要プロジェクト・構想・・・・・・・・ P8
- 神奈川口構想検討図・・・・・・・・ P11

産業振興に向けた基本的考え方



「再生力ある都市・地域経済」の維持・形成をめざして



ものづくり産業のあり方

課題 = 製造業の空洞化傾向

- ・ 事業所数 ピーク時(昭和58年)の56.3%
- ・ 従業者数 ピーク時(昭和44年)の27.5%
- ・ 製造品出荷額 ピーク時(昭和59年)の52.1%
- ・ 13大都市との比較でGDP(産業)の伸び率は最低

平成3年 平成13年 11%

基本的な視点
本市の基幹産業であるものづくり産業の再生は不可欠

【市内総生産額4.6兆円のうち製造業構成比は28.6%】
13大都市中 1位

【製造業従業者構成比18.2%】
13大都市中1位

製造業は市経済の中核
製造業は安定的な雇用吸収力
市民生活向上に不可欠

方向性
川崎の強みを活かして地域の競争力を強める

川崎の強み

高度な加工技術を持つ中小製造業の集積の高さ
研究機能集積の高さ

民間企業の研究所を中心に200以上の研究所
明治大学理工学部、慶應義塾大学理工学部等の理工系大学が周辺に立地
KSP、新川崎創造のもりなどサイエンスパークの立地
大田区、多摩地域等周辺に優秀な大企業、中堅・中小企業が厚く集積

交流促進による集積メリット効果を引き出す

- ・ 大学、民間研究所、中小企業との連携促進
- ・ 異業種交流等多様な交流機会
- ・ 大田区、多摩地域との広域連携

既存中小企業の高度化支援施策の展開

- ・ 中小企業サポートセンターによる経営・技術相談・助言体制の充実
- ・ 産学共同研究、大学との連携促進による新製品・新技術開発支援
- ・ 販路拡大、マーケティング支援
- ・ Webかわさき見本市等情報発信のサポート

南武線沿い大手ハイテク産業集積の維持

企業誘致の促進

(施策の方向性)

政策資源の選択と集中による育成・強化

- ・ 国際競争で優位性がある
- ・ 国内外で市場が拡大見込み
- ・ 市民生活の向上に寄与する
- ・ 基盤技術で、一定の集積がある

次の4分野

- ロボット関連産業
- 金型関連産業
- 福祉機器関連産業
- ナノテク(超微細加工技術)関連産業

(達成目標)

国際競争で優位性を持つ加工技術集積・研究開発集積の有るものづくりクラスターの形成

- 独自製品開発企業の創出
- 独自加工技術提供企業として拡大
- 経営革新による新事業分野進出企業の創出
- オンリーワン企業、ナンバーワン企業の輩出

川崎工業ブランド

臨海部地域の競争力強化事業の展開

川崎臨海部再生リエゾン推進協議会等と連携し、国際競争力強化、地球環境対応の共同事業を展開

分野ごとに連携強化

地域競争力の強化

ものづくり産業重点分野の考え方等

1 中小企業が川崎市にとって必要な理由

川崎の産業の中で中小製造業は大きなウエイトを占めている。他の産業に比べ安定的な雇用となっている。

事業所数 市内全事業所 43,058 うち製造業 4,523 (10.5%)

従業者数 市内全事業所 499,176 人うち製造業 90,723 人 (18.1%)
(平成14年事業所統計)

中小企業はイノベーション等の担い手

中小企業は地域社会と深く関わって活動をしている。

2 ものづくり 4つの重点分野

重点分野の選定の視点

- ・ものづくりの基盤的な技術で地域内に一定の集積がある分野
- ・アジア等とのグローバルな競争を考慮しても優位性がある分野
- ・国内外での市場拡大が見込まれる分野
- ・市民生活の向上に寄与するところが大きい分野

ロボット 金型 福祉機器 ナノテク

・この分野について、我が国・世界のトップレベル水準の中小企業を育成特にロボット関連分野、福祉機器関連分野、金型分野は市内ものづくり機能全体の底上げにつながる。

4 分野育成の方向

・川崎の強みを活かし、各分野でのネットワーク化を図り、例えば共通の課題について、大学、民間研究所と連携して技術開発をし、販路開拓などのマーケティング支援していくことにより、これらをいわばリーディング・インダストリーとして、また川崎工業ブランドとして育成。

3 ロボット

市場規模の拡大(今後の展望)

2003年市場規模 2010年市場規模(展望)

約5,000億円 約1.8兆円

地域資源の活用

多様な中小製造業の集積

ロボット産業の中心を担う企業約1,000社

研究機関の集積

東芝中央研究所をはじめとする研究機関

明治大学、慶應義塾大学等のロボット開発研究

「川崎ラボ」におけるレスキューロボット開発

既存産業技術の集大成

多数の要素技術が組み合わさって製造

4 金型

現状(平成12年)

・市内の製造業全事業所 3,984事業所

うち金型・同部品付属品製造業 211事業所

・年間出荷額 金型・同部品付属品製造業 180億円

将来性

・平成15年度から政府では「戦略的基盤技術力強化事業」を実施、重点分野の一つに金型が指定。

・本市においては(株)長津製作所と東京大学を中心とするコンソーシアムが選定され、ナノレベルの超精密金型技術の開発が進行

今後の方向性

・超精密金型技術開発に取り組む市内企業と大学等の連携支援による、超精密加工技術のいっそうの高度化

・超精密金型技術の他の市内企業や関連業種への普及推進による、市内産業集積全体の高度化

目標

・金型業界をリードするナンバーワン企業やオンリーワン企業の育成

5 福祉

市場規模の拡大(今後の展望)

2002年市場約56兆円・雇用約551万人

2010年の市場約75兆円・雇用約750万人(経済産業省 新産業創造戦略)

本市の産業戦略 地域資源を活かしながら、市民に貢献する産業の育成・振興を図る。

福祉産業を育成・振興できる地域資源

川崎市福祉産業研究会 市内の異業種中小企業で構成され、福祉機器開発等について研究

H13:9社で発足 H15:34社に増加

福祉機器のパーツづくりに欠かせない基盤技術を有する市内中小製造業集積

市内従業員数4~29人規模事業所1676(85.8%)のうち上位4業種(金型・製缶板金・部品加工等全て基盤技術)996(59.4%)(平成14年工業統計)

新たな地域資源 福祉機器大手企業「アビリティーズ・ケアネット(株)」が川崎進出を決定

今後の方向性 福祉機器メーカーの誘致と市内中小企業とのマッチング

6 ナノテク

ナノテクの可能性

・超微細加工技術という性格上、異分野と融合することにより革新的な成果が生み出される。2010年には20~26兆円に達すると予想(総合科学技術会議「ナノテクノロジー・材料」産業発掘戦略)

取り組む理由

・本市製造業の強みである研究機能の集積、理工系大学等への近接性などの優位性を生かし、ナノテクノロジー関連企業の進みつつある集積(ナノテク基盤材料、超微細部品成形加工技術、フェムト秒レーザー等) 研究機能、理工系大学とのネットワーク形成を促進することにより、融合研究等が期待できる 革新的な成果が、市内産業の活性化につながる。

今後の取り組みの方向性

・ナノテクノロジー関連産業の育成を図り、ネットワーク形成し、将来的には異分野との融合を促進 革新的な成果が、市内産業の活性化につながる。

新たな産業の創出・育成

課題・施策概要

(課題)

- ・ 開業率(3.5%)、廃業率(4.8%)の逆転
- ・ 市経済の活力低下
- ・ 創業、新分野進出促進
- ・ 市民生活に貢献する産業の創出・育成

(施策概要)

創業フォーラムによる創業意欲の啓発

元気な起業家発掘調査などによるPR

ビジネスプラン作成講座の開催

ビジネスオーディションの実施(かわさき起業家選抜ビジネス・アイデアシーズ市場)

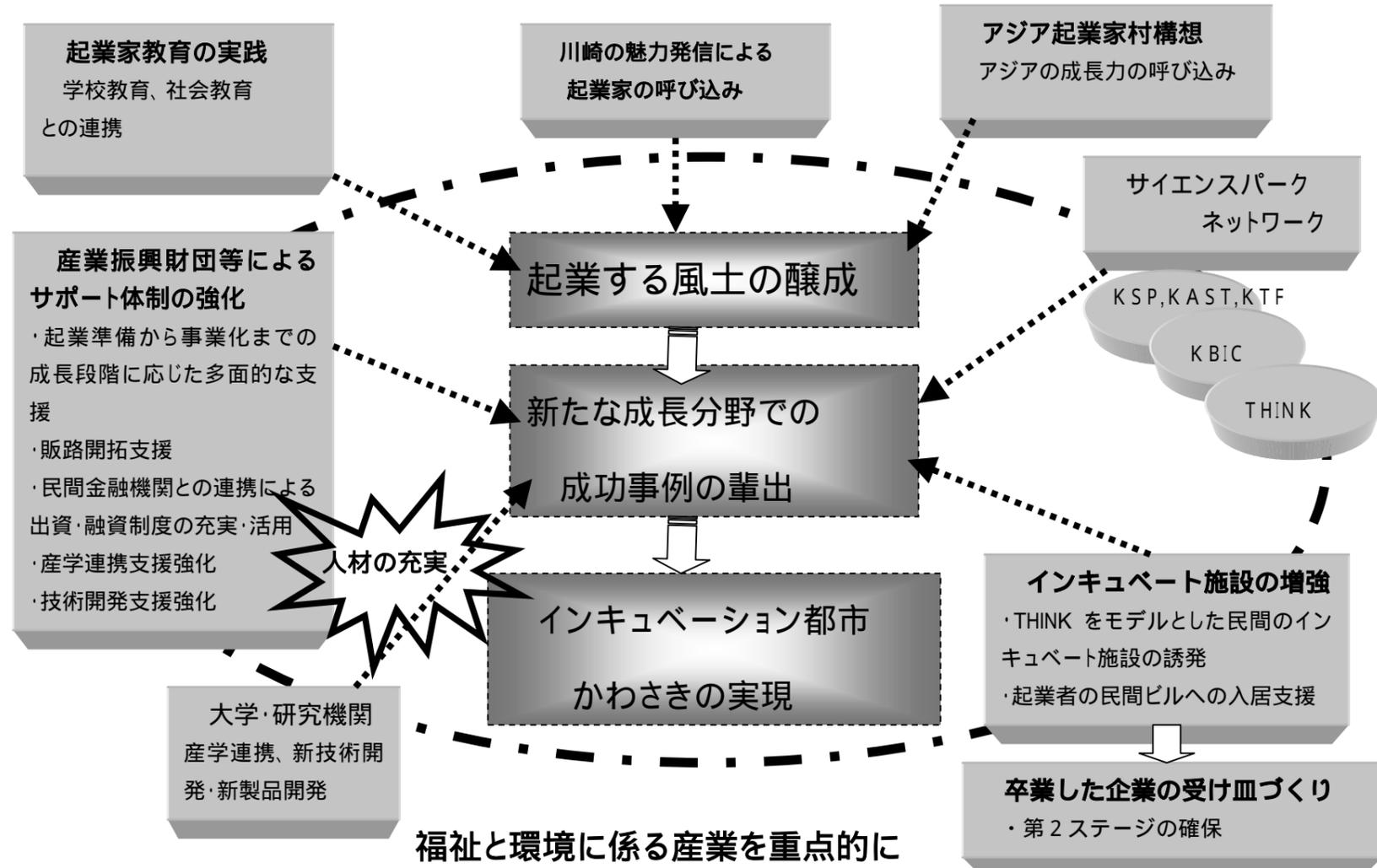
産学共同研究開発、新技術・新製品開発助成

産業振興財団のマネジャーのほか、税理士、中小企業診断士、弁護士、弁理士、技術士などによるアドバイス

開業、新分野進出支援資金の融資

インキュベーター施設の提供
川崎市産業振興財団内のSOHO オフィス「創房」及び「かわさき新産業創造センター(KBIC)」の運営と入居企業のスタートアップ支援

施策展開の方向性



達成目標(進捗目標)

- ・ 新たな成長分野での成功事例の輩出
- ・ イノベーションによる地域経済の活性化、雇用の増加
- ・ インキュベーション都市 かわさきの実現

重点分野における達成目標

- 福祉産業分野**
 - ・ 川崎発の福祉機器等の創出
 - ・ 「安心タウン」を核とした、高齢者の生活支援にかかわる新たな産業の活発化
- 生活文化産業分野**
 - ・ ガラス工芸を含め、市民生活を豊かにする観光、芸術・映像文化、健康など、新たな産業の創出
- 環境関連産業分野**
 - ・ 循環型社会の形成により、環境関連産業の新たな集積の創出
 - ・ 「アジア起業家村」を中心にした多くの起業

生活・文化産業の創出・育成

- ・ 生活文化産業(ヒューマンライフかわさき)の振興
- ・ 地域資源としての活力ある市内企業の発掘・顕在化
- ・ 観光、芸術・映像文化、健康など新たな産業の育成・振興のための体制づくり
- ・ 川崎区をモデルとした、安心ハウス、安心タウンの全市への展開
- 福祉産業の育成・振興**
 - ・ より広い主体で構成する「福祉産業NW」の構築
 - ・ ニーズ・ウオンツを反映した製品づくりを目的とした「資材調達見本市(逆見本市)」の開催
 - ・ 企業交流のコーディネーター、アドバイス支援
 - ・ 川崎発福祉機器創出システムの構築

環境産業の創出・育成

- ・ 環境関連産業ネットワークを構築し、環境技術に関する情報の発信
- ・ エコタウン構想の推進
- ・ 循環型社会の形成に向けた事業実施
- ・ リサイクル製品のグリーン購入、調達による支援
- ・ 循環型経済社会構築のために、市民への適切な情報提供、市民活動との協働

卒業した企業の受け皿づくり

- ・ 第2ステージの確保

新産業創造戦略の骨格

経済産業省資料

【戦略7分野】

- ①日本の将来の発展を支える戦略分野
- ②国民ニーズが強く内需主導の成長に貢献する分野
- ③我が国の産業集積の強みが活かせる分野
- ④官民一体の総合的政策展開が必要な分野

7分野ごとに、具体的な市場規模、目標年限を明示した政策のアクションプラン等を明示

7分野合計で、約300兆円の生産額が期待(2010年)

【先端的な新産業分野】

燃料電池 1兆円
官民での壮大なシナリオづくり

情報家電 18兆円
川下家電産業の競争力強化

ロボット 2兆円
先行用途の開発促進

コンテンツ 17兆円
国際展開の促進

【市場ニーズの拡がりに対応する新産業分野】

健康・福祉・機器・サービス 75兆円
総合的な育成

環境・エネルギー・機器・サービス 78兆円
研究開発の促進

ビジネス支援サービス 107兆円
人材育成

【地域再生の産業分野】

先端産業
産学官ネットワーク強化

ものづくり産業
高度部材集積の活用

地域サービス産業
地域の魅力の再認識と発信

食品産業
地域ブランドの発信

革新技术(ナノテク、バイオ、IT、環境)と伝統技術(からくり、技法等)

重点施策

1. 産業人材の強化

- 企業による人材投資の促進
- 優秀な人材を育てるための顕彰制度の充実
- ものづくり教育の充実

2. 知的財産の保護強化

- 営業秘密を含む知的財産の保護を強化
- 技術流出防止の徹底

3. 研究開発の重点化

- 研究開発の思い切った戦略分野への重点化